

静岡県の 学校図書館

令和5年12月発行

発行：静岡県総合教育センター

総務企画・ICT推進課生涯学習推進班

電話：0537-24-9715

メール：sogokyoku-soumuict@pref.shizuoka.lg.jp

講座 報告

「令和5年度みんなでつくろう 学校図書館講座」

令和5年9月22日、学校司書や司書教諭、学校図書館ボランティアなど、学校図書館に関わる方を対象に講座を実施しました。

はじめに県立中央図書館・西澤教育主査より、学校教育や図書館運営における著作権について考えるための基礎となる法律の話や、具体的な事例を交えての注意点などについて伺いました。

その後、横浜国立大学の石田喜美准教授をお招きし「ゲームでつなぐ教室と学校図書館」と題して、教室での学びに結びつけやすいゲームや、ゲームを取り入れた読書指導、学校図書館との連携活動についての事例などをお話いただきました。また、午後の演習「ゲーム体験」では、「みんなで本をもちよって～Bring your own book～」と「図書館たほいや」*が紹介されました。どちらのゲームも大いに盛り上がりましたが、特に「図書館たほいや」では、1人1台端末を活用した授業や学校図書館活動を念頭におき、オンライン辞書「コトバンク」を使用したプレイも行われました。

参加者からは「教科と図書をつなげ、図書室を活用できる方法を楽しく子ども達に伝えることができるヒントがたくさんあった」「今まで知らなかった本との出会い方を知ることができた」などの感想がありました。

※Webサイト「図書館たほいや」に遊び方の説明や様式のデータなどがあります。下の二次元コードからアクセスできます。



学校 図書館 情報①

県立高校4校と市立図書館の 連携・協働～「高校生が選ぶ掛 川文学賞」の取組について～

高校生が選ぶ掛川文学賞は、「文芸のまち掛川」をめざして、学校図書館、公立図書館、市民文芸団体が連携・協力して、高校生の読書活動の啓発を行う事業です。令和4年度にスタートし、今年度が2回目。掛川市にある4つの県立高等学校に通う生徒が選考委員となって、市民の代表が選んだ候補5作品を読んで、高校生の目線からもっとも共感を得た1作品を文学賞に選びます。

今年度も7月に副市長、児童文学作家、高等学校教諭、図書館司書、書店店主からなる「市民選書会議」を開催し、高校生に読ませたい5作品を選びました。これらの作品を4校から立候補した13名の高校生選考委員が8月から読み進め、11月10日（金）の「高校生選考会議」に臨み、対話をかさねた結果、今年度の掛川文学賞には、遠未真幸著『おかげで、死ぬのが楽しみになった』が選ばれました。

令和6年1月20日（土）には、受賞作家 遠未真幸氏を招き、高校生の手で、授賞式、交流会、シンポジウムからなるイベントが掛川市立中央図書館で開催されます。

この事業は校長（担当校）、市立図書館長、4校の図書主任、市民文芸団体代表からなる実行委員会で運営し、事務局は掛川工業高校が担当しています。市立図書館や各校の学校図書館では、掛川文学賞を契機にノミネート作の展示や広報、読書会の開催、本好きな生徒に選考委員への立候補を呼びかけるなど、掛川市全体で高校生の読書活動の啓発に取り組む機運が高まっています。



掛川工業高校
図書館の展示風景

学校
図書館
情報②

令和5年度
「読書県しずおか」づくり
優秀実践校表彰

静岡県教育委員会では、子どもの読書活動の推進において特色ある優れた実践を行っている学校や団体及び個人を表彰しています。

今年度は4校2団体の受賞が決定しました。表彰式は11月14日(火)に県庁で行われました。

学校の部で受賞されたのは次の4校です。

【小学校】

袋井市立袋井北小学校

【中学校】

浜松市立北部中学校

【高等学校】

静岡県立掛川工業高等学校

【特別支援学校】

静岡県立浜松特別支援学校

おめでとうございます

資料
案内②

子どもの読書に関する
調査報告について

2023年10月、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が共同で実施している「子どもの生活と学びに関する親子調査」を中心とした調査結果から、子どもたちの読書行動の実態や要因に関するデータが「**小学校から高校生の読書に関する7年間の追跡調査データ**」として発表されました。この調査は「子どもの生活と学習に関する意識と実態（子ども調査）」と「保護者の子育て・教育に関する意識と実態（保護者調査）」をテーマに、同一の親子を対象に2015年から7年間継続して追跡し調査したものです。

調査結果からは、約半数の子どもの一日（平日）の平均読書時間が0分であること、小学校入学前に読み聞かせを受けた子どもや、早期に

資料
案内①

『確かめながら 学校図書館と1人1台端末 ひろがる！つながる！学校図書館』出版：全国学校図書館協議会(2023年)

GIGAスクール構想よる1人1台端末の配備もほぼ完了し、慌ただしさが落ち着いてきた頃かと思いますが、1人1台端末と学校図書館との関係はどうなっているでしょうか。学校図書館活用とICT活用が融合したという声もある一方、ICT活用の進展に学校図書館が取り残され、影が薄くなってしまったという声も多く聞かれ、学校図書館の整備・活用に「全国的格差」が広がることに危機感が強まっています。

本書は、1人1台端末を利用して学校図書館ができること、例えば利用指導やオリエンテーションなど具体的な個別の教育活動や授業支援の事例、発達段階を意識し従来の読書活動にデジタル情報を取り入れていく課程、ICT活用時の著作権に関する注意点などを具体的、実践的に解説しています。

センター図書室でも所蔵しておりますので、ぜひご覧ください。



読書習慣を身につけた子どもはその後読書時間が長い傾向があること、一日の読書時間が1時間以上の「多読層」の子どもは、それよりも読書時間が短い子どもの層と比べて、理解・思考・表現の能力について自己評価が高いことなどが明らかになったとしています。

同じ親子を継続的に調査することにより、家庭環境による子どもの読書行動の変化について捉えた珍しい調査です。

詳細はベネッセ教育総合研究所のWebサイトで公開されています。下の二次元コードからアクセスできますので、必要に応じてご覧ください。

ベネッセ教育総合研究所 > ニュースレター「【小学校から高校生の読書に関するデータ】子どもの読書行動の影響要因を解明 7年間の継続研究で判明した早期の読書習慣の重要性」を公開しました。(PDF)

